

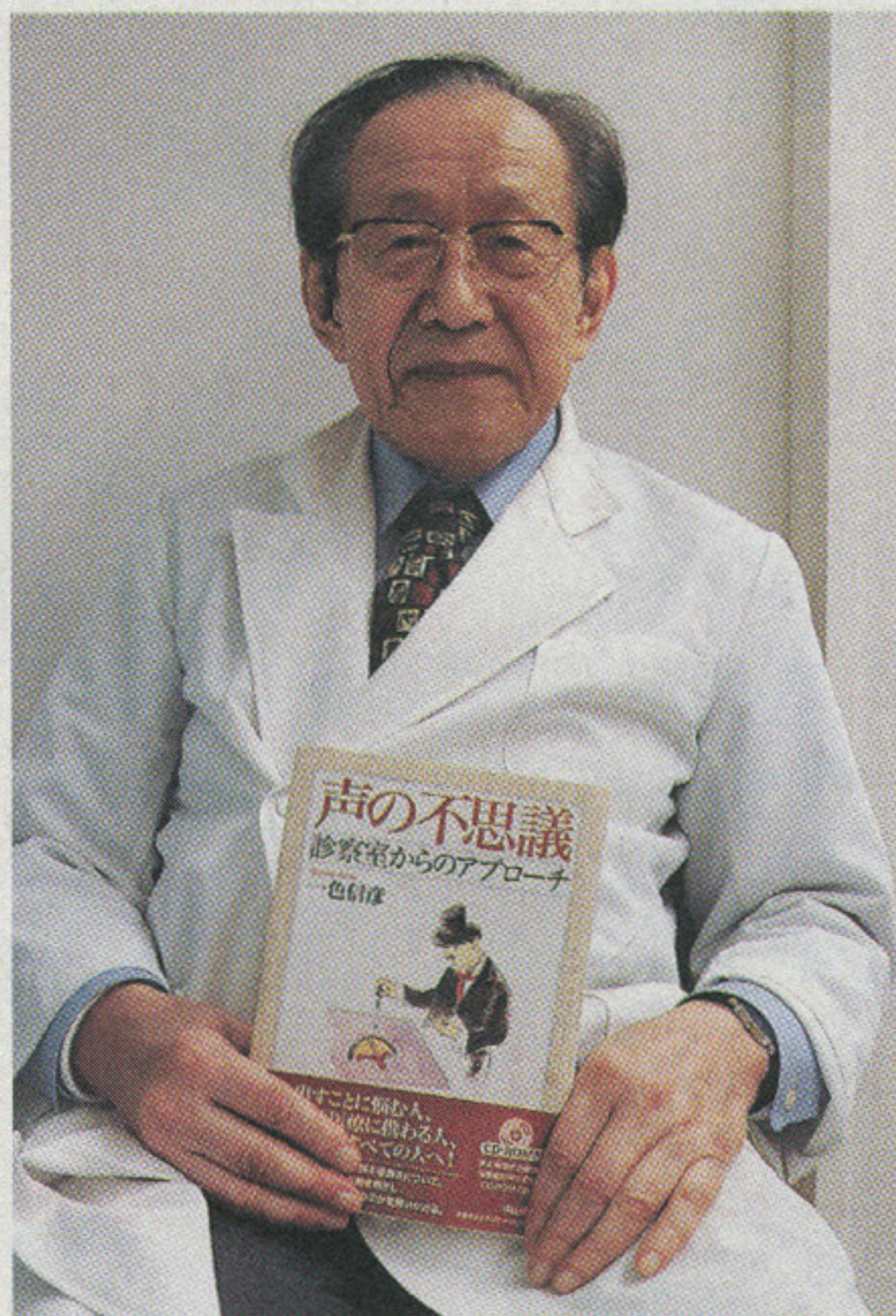
「声の不思議」 権威が本出版

声の病気で「一色の法」と呼ばれる甲状軟骨形成術を開発したことで世界的に知られる中京区の一色クリニック院長、一色信彦さん(76)＝京都大名誉教授＝が著書「声の不思議」(中山書店)を出版した。半世紀のキャリアがあり、1500人以上を診てきた。一色さんは「とにかく声は不思議で謎が多い。本が、声に興味を持つきっかけになれば」と話している。

京大医学部を1954年に卒業。医学部付属病院にいた77年、局所麻酔による手術方法を発表した。従来の治療は声帯に直接施したが、一色さんが開発したのは声帯を支える甲状軟骨の位置を調節する方法だった。

中京・一色クリニック
一色 信彦院長

「一色の法」
世界で導入



著書「声の不思議」を出版した一色信彦さん＝中京区の一色クリニックで

声帯触らず
声出す手術

男の声から
女の声にも

震えたりする病気があ
る。けいれんを止める
治療法はまだないが、声
帯を支える甲状軟骨を広
げれば、声が出るように
なる。局所麻酔のため、
声を出させながら手術す
ることができ、声帯に触
れなくて済むと涙ながらに訴

る手術で、女性の高
い声に変わる。

今春、韓国人の世界的
オペラ歌手ベニー・チェ
イルさんが訪れた。ベ
ーさんは甲状軟骨がんで手術
を受けて声帯をつかさど
る神経を切り、空気が漏

える人もいた。声帯の間
を4ミリのほど広げる手術で
声がスムーズになるよう
になると、笑顔に変わっ
た。「声は自己表現の一
つ。しゃべれないという
ことは想像以上につらい
ものです」と一色さんは
話す。

最近では性同一性障害
の患者も多く訪れる。女
性への性別適合(性転
換)手術をしても、低い
声に違和感を覚える人が
いる。声帯の間隔を狭く

れるほどの声しか出な
なかった。支援者の音楽プ
ロデューサー輪嶋東太郎
さんがドイツや英国で
医師を探した際、「マエ
ストロ(巨匠)」として
名が挙がったのが一色さ
んだった。

手術では、声帯の位置
を楽器の調律のように
1ミリの単位で変えてい
た。「声を出してみ
て」「これじゃ、だめ」
何度も調整を繰り返
し、4時間に及んだ手術の
最後、ベニーさんが賛美歌
を歌った。透き通る美し
い声に、手術室は静まり
かえった。輪嶋さんは
「リハビリに時間がかか
るかもしれないが、復
活を信じている」と話
す。

著書「声の不思議」
は、声の病気への質問、
治療法の変遷などを紹
介。付録のCDには、性
同一性障害の患者の術
前、術後の声などが録音
されている。問い合わせ
は中山書店(03・381
3・1100)へ。

「興味持つきっかけに」